

# 令和5年度 学会・学術に関する委員会 事業報告

## 1. 活動テーマ

- (1) 第12回日本公衆衛生看護学会学術集会における第9回全国保健師長会特別企画（ワークショップ）の実施
- (2) 「保健師の未来を拓くプロジェクト」への参画

## 2. 目的

- (1) 地域保健で働く保健師による調査研究やまとめの報告、最新の知識等の学びの場を確保し公衆衛生看護の専門職として自己研鑽や資質向上を図る。
- (2) 「保健師の未来を拓くプロジェクト」に参画し、保健師の公衆衛生看護活動の基盤となるグローバルスタンダードを作成するプロセスに携わる。

## 3. 実施状況

今年度から、新たに「保健師の未来を拓くプロジェクト」への参画が活動に追加され、委員6名が、ワークショップ企画準備及びプロジェクト参画に3名ずつ分かれて活動した。

- (1) 第12回公衆衛生看護学会学術集会におけるワークショップ開催準備・運営

回	開催日	場所	内容
1	令和5年6月6日	書面 会議	【第1回委員会】(6名) ・委員会の活動及びタイムスケジュールの共有 ・ワークショップのテーマおよび内容の検討
2	令和5年6月26日	WEB 会議	【第2回委員会】(3名) ・ワークショップに関する意見集約、内容検討
3	令和5年7月5日	WEB 会議	【第3回委員会】(6名) ・ワークショップの内容、講師について共有 ・今後のスケジュールの確認
4	令和5年10月25日	WEB 会議	【第4回委員会】(3名) ・ワークショップの詳細内容協議、講師との打ち合わせ ・今後のスケジュール確認、準備役割分担
5	令和5年12月13日	WEB 会議	【第5回委員会】(6名) ・ワークショップ内容、当日の運営、役割分担確認 ・準備状況共有、作業分担確認
6	令和6年1月5日	北九 州市	【第6回委員会】(6名) ・ワークショップ最終打ち合わせ、会場・役割確認
6	令和6年1月6日	北九 州市	【第7回委員会】(6名) ・講師当日打ち合わせ、運営 ・終了後に振り返り実施

(2) 保健師の未来を拓くプロジェクトへの参画

回	開催日	場所	内容
1	令和5年4月28日	WEB 会議	【準備会】(2名) 自己紹介、プロジェクトの趣旨・今後の進め方等
2	令和5年6月20日	WEB 会議	【第1回会議】(2名) プロジェクトの目的、目指す成果、進め方等
3	令和5年6月29日	WEB 会議	【臨時学習会】(3名) 先駆的に未来を拓いてこられた助産についての講演会
4	令和5年7月18日	WEB 会議	【第2回会議】(2名) 保健師のコアバリューの検討等
5	令和5年8月17日	WEB 会議	【ワーキンググループ】(1名) コアバリュー・コアコンピテンシーの定義・内容明確化に関する作業
6	令和5年8月23日	WEB 会議	【第3回会議】(3名) コアバリュー・コアコンピテンシー案の協議等
7	令和5年9月29日	WEB 会議	【第4回会議】(3名) デルファイ調査、評価機構法人化に関する協議等
8	令和5年10月26日	WEB 会議	【第5回会議】(1名) デルファイ調査1回目の結果と修正案に関する協議等
9	令和5年11月21日	WEB 会議	【第6回会議】(2名) デルファイ調査2回目の結果と修正案に関する協議等
10	令和5年12月18日	WEB 会議	【第7回会議】(3名) デルファイ調査3回目の結果と修正案に関する協議等
11	令和6年1月22日	WEB 会議	【第8回会議】(3名) 保健師関連団体の意見共有と修正案に関する協議等
12	令和6年2月19日	WEB 会議	【第9回会議】(2名) パブコメ、プロジェクト活動報告等に関する協議等
13	令和6年3月19日	WEB 会議	【第10回会議】(3名(予定)) パブコメの結果と修正案に関する協議等

4. 結果・課題

(1) 第12回公衆衛生看護学会学術集会におけるワークショップ開催準備・運営

今年度の公衆衛生看護学会学術集会は、ハイブリット方式での開催となった。その中で、第9回の全国保健師長会特別企画として、「みんなで考えよう！～共に育ち合えるしなやかな【レジリエンスの高い】職場環境を目指して～」をテーマにワークショップを開催した。

昨年度のアンケート結果や委員会での検討を踏まえ、日本赤十字看護大学成木弘子教授に「今後求められる保健師像と人材育成について ～レジリエンスの高い保健師の育成を目指して～」をテーマに講義をいただき、後半は「共に育ちあえるレジリエンスの高い職場環境を目指して取り組めること」と題して、グループワークを行った。

成木教授には、これからの時代の人材には「レジリエンス（困難な状況に直掩したときに

しなやかで折れることなく立ち直る力)」が求められること、個人や組織のレジリエンスを高めるための具体的な方法として「成功体験」のリフレクション（査察）、レジリエンスを高めるためのリーダーの役割と合わせて、職場での具体的な実践につながる内容をご講義いただいた。

その実践として、グループワークでは、短い時間であったが、参加者の成功体験の発表についてのリフレクションを実践でき、各グループとも活発な意見交換が行われた。

参加者は100名で、アンケート回答者（56名：56.0%）のうち、55名から今回のワークショップを「役に立った」と回答があり、「自分が元気をもらえた」「上手くいったことを振り返る機会が大切」「レジリエンスの高い職場を作るために、まず自分のレジリエンスを高めたい」「職場に持ち帰って実践し、育ちあえる職場にしていきたい」などの感想を得た。

今回は、コロナ禍を過ぎ、保健師を取り巻く環境が更に大きく変化する中で、自分の自己効力感を高め、しなやかに変化し続けられる人材・組織の育成について具体的に実践するための多くのヒントを得られたと思われる。

また、集合形式での開催ができたことで、お互いが顔を見合わせて意見交換・情報共有できたことも、有意義であった。

来年度以降も、ハイブリット方式の開催の可能性は高い。当日のライブ配信やオンデマンド配信をすることで、より多くの参加が期待できるが、そのための人手や予算も必要であり、来年度以降も検討が必要と考える。

## (2) 保健師の未来を拓くプロジェクトへの参画について（松本会長、前田副会長と共に出席）

令和5年度、保健師の実践・教育・研究を担う3団体で構成された「保健師の未来を拓くプロジェクト」に全国保健師長会からも会長、副会長、学会・学術に関する委員会委員3名が参加した。

会議の中で、保健師のコアバリュー、コアコンピテンシーについて検討し、デルファイ調査を経て、3つのコアバリュー、8つのコアコンピテンシーに整理された。

今後は、活動報告や専門誌への寄稿を進めるほか、これら保健師の関連概念が広く周知・活用されるよう、さらなる検討を進めていく予定である。

## 5. 支部活動の特徴

今年度より、新たに「保健師の未来を拓くプロジェクト」への参画が活動に追加され、委員を6名としてワークショップ企画とプロジェクト参画に分かれ、各々WEBによる委員会等会議の実施と、メールでの資料の共有や確認等作業の活動を行った。

1月の公衆衛生看護学会学術集会のワークショップ開催当日は、全員が参集してワークショップを運営した。

別途、月1回WEBにより開催される第12回日本公衆衛生看護学会学術集会本体の企画委員会へは、委員長のみ出席し、必要な情報を委員会内で共有する体制とした。

## 5. 委員・支部長

氏名	所属
○ 高橋 都子	北九州市戸畑区役所保健福祉課保健福祉・相談担当課長
井上 京子	福岡県京築保健福祉環境事務所保健衛生課感染症係長
吉村 史子	福岡市南区保健福祉センター地域保健福祉課長
古橋 完美	愛知県半田保健所健康支援課長
唐川 祐一	愛知県後期高齢者医療広域連合広域連合給付課 保健事業グループリーダー
成田 裕香	愛知県幸田町健康福祉部健康課課長補佐